**説教20230423使徒言行録4：5-12ルカ24：36-48「まことの救いとは」**

**私はクリスチャンになる前は、クリスチャンではありませんでした。なぜか今日はこの様な出だしから語りだしたくなったのですが、皆さんどう思われたでしょうか。「私はクリスチャンになる前は、クリスチャンではありませんでした。」それはそうでしょう、言うまでもなく当たり前の話ですね、と思う方も居られると思います。一方で信仰深いクリスチャンの方ならば、一見いうに及ばないようなこの言葉を、感慨深い一片の詩として味わうことも出来るのです。「私はクリスチャンになる前は、クリスチャンではありませんでした。或る時、憐れみをこう私の処に、イエス様が近づいてきてくださって、その慈愛に満ちた救いの手でわたしに触れて下さって、絶望していた私に、生きる希望を与えて下さいました。しかも、その希望と言うのは死なない希望でありまして、この世での死を突き抜けて、最後の最後に全てのものが朽ちない喜びへと至るという希望であります。イエス様は、そのように私を生まれ変わらせて、イエスキリストに従う希望の道を歩むクリスチャンへと生まれ変わらせて下さったのでした。」と言った一片の詩歌なのであります。**

**この様に同じ言葉でもその受け取り手によって受け取り方は様々であります。今日の使徒言行録の聖書箇所に、次のような聖句があります。４章１２節、**

**「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」ここでペトロが「この名」と言っているのは、主イエスキリストのお名前ということです。わたしたちが救われるべき名は、天下にイエスキリストのほか、人間には与えられていないのです。この御言葉は、信仰深いクリスチャンにとりましては、疑いようがない真実であり、又、聞くたびに励ましを受ける詩歌のような御言葉であります。ところが、イエスキリストのことは知らないし、私と何の関係があるのか、という方ならば、この御言葉は、意味不明で、聴くに値しないたわごとか、真実から外れた誤りかのように聞こえてしまうのです。**

**この受け止め方の違いは大きな違いであります。この説教を聴いている方々の中には、クリスチャンの方も居られれば、まだクリスチャンではない方々もおられます。では、こんなに受け止め方が違うであろうこの聖書に書かれてあるイエスキリストの御言葉を、この説教を聴いている全員が、一応分裂しないで、なぜ聞き続けることが出来るのかと言いますと、それは、今、この時にこの場所が、イエスキリストの霊であります一つの聖霊に満たされているからであります。**

**この時ペトロも聖霊に満たされていました。聖霊と言うのは、天に居られる主イエスが一人ひとりの人間に送ってくださっている、憐れみと自由の霊であり、どんな時でも又どこにいても私たちはその聖霊に満たされることが出来ます。ペトロはこの時、牢屋に入れられ、時の権力者である、議員、長老、律法学者、大祭司一族たちから尋問され、「お前たちは何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか」と、責められていたわけですから、本当に命がけで先の「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」と言ってイエスキリストによるまことの救いを証言したわけであります。**

**このように聖霊に満たされるというのは、イエス様がこの世の死をも乗り越える希望を与えて下さって、御手を差し伸べてこの上ない慈愛を与えて下さるということであり、それだからこそ、ペトロは死刑になる事をも恐れることなく、このようにみんなの前で堂々とイエスキリストを証言し告白することが出来たのでした。**

**私自身も、イエスキリストを信じて洗礼を受けてクリスチャンとされてから、この聖霊の満たしと導きによって、どんな困難な事態や、絶望的な状況からも救われてきました。今や、私は、クリスチャンではなかったときに何を拠り所にして生きていたのだろうかといぶかられるくらいであります。**

**今の世の中は、信仰がない時代だとよく言われますが、より正確に言えば、多くの人が何を信じて良いのかわからず、怖くて結果的に何も信じないで人生を過ごしてしまうか、非常に受け身の姿勢で、世の中全般が信じてしまっている迷信に安易に身を預けてしまうと言った状況だろうと思います。**

**願わくは、この地上の隅々に迄、聖霊の満たしがあって、全ての人々が「ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」と歌って、イエスキリストを証しするときが訪れますよう切に祈ります。**

**さて、この教会の礼拝は、イエスキリストが復活の御姿を顕してくださり、私たちに慈愛の御手を差し伸べて下さる場所であります。そして教会の礼拝は、祈りの場所でもあります。今日の詩編６７編も、とても整えられた常に祈られる祈りであります。**

**神がわたしたちを憐れみ、祝福し／御顔の輝きを／わたしたちに向けてくださいますように**

**あなたの道をこの地が知り／御救いをすべての民が知るために。**

**神よ、すべての民が／あなたに感謝をささげますように。すべての民が、こぞって／あなたに感謝をささげますように。**

**諸国の民が喜び祝い、喜び歌いますように／あなたがすべての民を公平に裁き／この地において諸国の民を導かれることを。**

**クリスチャンは祈る時に、天にいます私たちの父なる神様に向かって、祈ります。そして最後にこれらのことを私たちの救い主イエスキリストのお名前によって祈りますと明言します。これは、イエスキリストとともに祈らせて頂くということです。**

**私たちは、まことの救い主イエスキリストと一緒でなければ、この詩編６７編の祈りを祈ることはとてもできません。**

**私たち人間は、この地に生まれ落ちて、クリスチャンになる前の姿においては、本来、自分ひとりだけの救いを祈り願う者たちであります。人は自殺をしようと思い立つほど追いつめられれば、もう人のこと等考えている余裕はなくなります。イエスキリストは、そんな私たち人間の哀れな姿をちゃんと承知の上で、そんな私たち人間一人ひとりを憐れまれ、十字架上でのご自身の苦しみの中から、慈愛の御手を差し伸べて、ただあなた一人のために救いの御手を差し伸べて下さったのでした。**

**そのようにイエスキリストに個人的に救われたあなたは、クリスチャンとされてキリストの信仰希望愛に生きる道を歩まされますが、そのイエス様がただの人ではないことは祈りの内に益々わかってくることでしょう。**

**神がわたしたちを憐れみ、祝福し／御顔の輝きを／わたしたちに向けてくださいますように、と私たちは祈りますが、ここでいう私たちと言うのは、世間的に発想するような、仲の良い私たちですとか、同じ職場の私たちですとか、同じ志を持つ私たちですとか、血のつながった私たちですとか、いう意味ではないのです。イエス様がおっしゃる私たちとは、この地上の全ての民のことであり、具体的に言えば、今とても憎み合っている人同士ということをも言い含んでいるのです。**

**ですから、私たちはこの「神がわたしたちを憐れみ、祝福し／御顔の輝きを／わたしたちに向けてくださいますように、」という祈りは本当にイエスキリストの御名によってイエスキリストと共に祈るのでなければ、深く祈れることではないのです。**

**しかし、私たちが、まことにイエスキリストと心を合わせて、この祈りを深く祈る時、イエスキリストは私たちと深く交わって下さって、私たちの内に住んで下さって、実際に私たちを憎しみあう者たちから、愛し合う者たちへと生まれ変わらせて下さるのであります。**

**今この時代、イエスキリストは天に上げられ父なる神の右に座っておられまして、そのお姿を私たちが見ることは出来ませんが、その代わり、先ほど申し上げましたイエスキリストの霊である聖霊が、私たちを満たして下さって、生かして下さいます。**

**今日のルカ福音書にはイエスキリストが十字架の死から復活して、人々の前にその体を現して下さって、40日間人々と共に過ごされ、それから天に上げられた間の出来事が記されています。この40日間、イエスキリストは肉体を伴って、人々と親しく交わり、食事を共にし、聖書に記された御言葉を手ずから指し示したという貴重な出来事がこの聖書箇所には記されています。**

**イエスキリストは十字架上で死なれましたが、彼のことを慕う仲間たちを決して見捨てることはなく復活をされて、こうして彼らの真ん中に立って、「あなたがたに平和があるように」と言われました。このイエスが言われる平和とは、礼拝で交わされる主の平和のことであり、人間的な一時的な平和のことではありません。でも彼らは、こんな風にイエス様が来られて「主の平和」と言われてもにわかにそれを信じることが出来ず、うろたえ心に疑いを起こしたと言います。そんな彼らの様子をよく見られて次にイエス様は、御自分の手と足を彼らにお見せになられました。そうすると彼らは喜びのあまりかえって信じられなかったとあります。それで次にイエス様は「ここに何か食べ物はあるか」と彼らに言われ、彼らが差しだした焼いた魚を、彼らの前で食べられたのでした。**

**こんな風に復活のイエス様と仲間たちは実際にこの地上でやり取りをし、仲間たちの信仰は深められました。このイエス様との交わりは、今の私たちが教会の礼拝で体験することであります。私たちは礼拝で主イエスに感謝し賛美をし、平和の挨拶をかわし、そして聖餐にあずかっています。この様に聖書に書かれてあることは今のこの時の出来事とつながっているのです。又、今ここに置かれています聖書という書物もこの時から変わるものではありません。変わることがない神様の言葉がここには記されています。但し、聖書を読む人間の心と言うのは冒頭に申し上げましたように非常に移ろいやすく、聖書を読む時には常に聖霊の満たしが必要です。**

**ルカによる福音書24章45節以下、**

**そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、**

**言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。**

**今を生きる私たちには、この様にイエス様ご自身が聖書を悟らせて下さるという体験が益々大切であります。それは、じぶんの思いや自分の勝手によって聖書を解釈してしまうという危険から私たちを救ってくれるでしょう。どうか私たちがイエス様の霊である聖霊が満ち満ちているこの教会に実際に集って、聖霊に満たされながら聖書を読むという体験を謙虚にそして従順に積み重ねていくことが出来ますようにとお祈り致します。**

**祈り**

**父なる神よ**

**神よ、ここに集う私たちの眼を開いて、慈しみ深いあなたの御言葉を、御子イエスによって、私たちに悟らせて下さい。**

**わたしたちがあなたの御言葉を信じ、御言葉によって救われるものとして下さい。**

**事実、あなたは御子イエスを十字架に付けられ、苦しみの中から私たちの幸いを祈り、三日後によみがえって、再び私たちと共に歩んでいて下さいます。私たちが、十字架によって自らの罪を悔い改め、罪赦されて、常に御子イエスとともにおられる者たちとして下さい。**

**「神よ、わたしたちを憐れみ、祝福し／御顔の輝きを／わたしたちに向けてくださいますように。」**

**今、ウクライナやスーダンなどで戦争が継続し、多くの方々が傷つき苦しんでいます。又、すぐそばで、私たちは敵対し合い、傷つけあい、あなたの悲しむことをしてしまいます。どうかそのような罪深い私たちをお許しください。御子イエスの御名によって、とりなし祈らせて下さい。**

**今週の私たちの日々の歩みをあなたが慈しみの内に守って下さい。私たちが日々犯してしまう罪を、十字架によって悔い改め、清い心と体とをもって次週の聖餐にあずかれますように、私たちの歩みを導いて下さい。**